

## 「一生勉強、一生青春」

- 私の好きな言葉 -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：夏休みですので、今回は塾長の好きな言葉を紹介して下さい。

A：(林明夫。以下省略)

(1)「小学生も新聞を読むこと」。これは、足利市立山辺小学校の3・4年生の時のクラス担任の岡典子先生から教えて頂いた言葉です。小学生でも新聞を読んでよいのかと気付き、少しずつですが新聞を読むようになりました。5・6年生のクラス担任の高田健司先生も新聞を読むことを勧めて下さいましたので、新聞を毎日読み、少しだけ大人の仲間入りをしたような感じがしました。

Q：中学校時代の好きな言葉は何ですか。

A：(2)「ブルドック魂(たましい)」。これは、足利市立山辺中学校の2・3年生の時のクラス担任の岡田忠治先生から教えて頂いた言葉です。「食いついたら離さない」という意味だとも教わりました。何事も一度始めたら途中で投げ出さないこと。粘り強く、執念をもって励むようにということだと私には思えました。

(3)柔道部監督の椎名弘先生からは、「練習で泣いて、試合で笑え」といつも言われました。2年生の栃木県新人戦や3年生の県大会で団体優勝したチームだったので、練習は相当厳しかったのは当然ですが、椎名先生のこの言葉に励まされ、皆よく練習しました。

椎名先生はまた、「自他共栄」、自分も他人も共に栄えることが大事だという講道館の教えも教えて下さいました。中学生ながら、なるほどその通りだなと思いました。

Q：高校時代の好きな言葉は何ですか。

A：(4)栃木県立足利高校で印象に残っているのは、何ととっても10キロマラソン大会のときの合

言葉である「一所懸命」、つまり、一つの所で命を懸けるくらい熱心に物事に取り組もうです。

Q：塾長は、いろいろな学校にいる時に、いくつか好きな言葉を教えられたり、出会ったりしているのですね。大学ではどんな言葉が印象深かったのですか。

A：たくさんあります。

(5)「法律を学んだ人は、いつも最悪の事態を予想して行動すること」。この言葉は、慶應義塾大学法学部法律学科の2年生の時に、法思想史のゼミの担当であった峯村光郎先生から教えて頂きました。

(6)峯村先生からは、「外国人との友情を保つ秘訣は、バースデーカードとクリスマスカードを毎年送ることである」とも教えて頂きました。筆無精の私はなかなか実行できませんが、皆様に参考になればと思い、御紹介いたします。

(7)「注意一秒、ケガ一生」。これは、大学3・4年生の時に犯罪の原因や対策を学ぶ刑事政策のゼミで宮沢浩一先生から教えて頂いた言葉です。

(8)「学校や家庭、社会でちゃんと勉強していれば、このような所に来なくてよかった人ばかりなのに」。大学生の時に、宮沢先生に連れられて訪問したいいくつかの刑務所の所長さんや刑務官の先生から言われた言葉です。

(9)「独立自尊」。国も個人もともに独立してはじめて自身を尊く感じる事ができるという慶應義塾の創始者福沢諭吉先生の教えも大好きです。「学問のすすめ」や「福翁自撰」。

(12)「教育ある人とは勉強し続ける人」。これは、経営学の大家、ピーター・ドラッカー先生の言葉です。自分の夢や可能性、よさを伸ばすために、学校時代だけではなく、少しずつでもコツコツとどんなやり方でもよいから自分のやり方で死ぬ前の日まで勉強をし続けることが、人間の生き方として素晴らしい、また、尊いことだと私は考えます。

(13)「いつまでも若々しく生きる」。これは、日本にヨガを紹介した中村天風先生の言葉です。中村天風先生には「成功の実現」という素晴らしい御著書があります。高齢化社会で大切なのは「心の若々しさ」です。

私は「人生は105歳、いつまでも若々しく生きる」ことが大事と考え、「35歳まではひたすら勉強、70歳までは仕事や社会活動、よい家庭づくり、75歳からは自由自在に自分らしく生きる」こと。そう考えます。

(14)「自然と精神」。ベイトソンという先生が大切にされた考えです。私の大好きな言葉です。

Q：最後に一言どうぞ。

A：皆様も、大切に、大切にしている言葉がいくつかあると思います。時々、ノートや日記、手帳に書き出してみて、その意味をじっくり考えると、自分自身を見つめ直すよい機会になると思いますよ。

- 2009年7月21日記 -

— 林 明夫紹介 —

- ・ 開倫塾 塾長
- ・ 学校法人 友朋学園 東日本高等学院 理事長(福島市)
- ・ 栃木県社会教育委員(栃木県教育委員会)
- ・ 宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授
- ・ マニー株式会社(ジャスダック・Jストック、手術用縫合針製造) 社外取締役
- ・ 社団法人 経済同友会(東京) 幹事
- ・ 社団法人 栃木県経済同友会 幹事
- ・ 開倫ユネスコ協会 会長